

## 新聞記事に見る高校野球報道

荻野 勝彦

有望な野球選手、特に投手が、高校時代に「酷使」されることによってその後の成長・活躍を阻害されるとの意見は従来からあり、その理由を「甲子園システム」に求める説も根強い。そしてその大きな一因としてメディアの問題点もつとに指摘されているところである。そうした見解の一例として、元毎日新聞記者の黒岩揺光氏のコラムをまず紹介する。

### 「目指せ甲子園」が日本を駄目にする 黒岩揺光(元毎日新聞記者)

[http://www.huffingtonpost.jp/yoko-kuroiwa/koshien-major\\_b\\_11456704.html](http://www.huffingtonpost.jp/yoko-kuroiwa/koshien-major_b_11456704.html)

#### 「甲子園制度を改革することでしか、日本の野球のレベルアップはありえないと思っている」

... 甲子園の最大の問題は、高校スポーツとしては世界でも稀にみる注目度と短期のトーナメント方式にある。高校生のスポーツ大会が、連日全国紙で3-4ページも割かれて報道され、球場に3-4万人の観客を集めるというのは、他の国で聞いたことがない。学校からすれば、甲子園ほど良い宣伝方法はなく、良い指導者、良い施設にお金を投じ、チームに1人良い投手がいれば、絶対勝利主義のもと、その投手を連投させる。

...

大手新聞社が主催しているため、甲子園をメディアが「美化」しようとする...。夏は朝日新聞、春は毎日新聞がそれぞれ主催し、NHKが全試合を放送する。

私は毎日新聞記者1年目に奈良県の予選を担当したが、毎日、「雑感記事」として選手にまつわるお涙頂戴の話を探さなければならなかった。そして、一番よくあるお涙頂戴は選手の「ケガ」にまつわる話。エースだったが、ケガをしてマネージャーになり、選手を影で支えろとか、ケガで前の大会は出られなかったが、今大会で涙の復活とか。ケガを「美化」し、野球部の管理体制に疑問を呈するなんていうことはしなかった。...

8月10日の甲子園で、広島新庄のエースが177球を投じた。無論、それについてメディアは疑問を呈さない。「エースの熱投」だとたたえるだけである。

松井秀喜が高校時代、甲子園で5打席連続敬遠された時、相手チームの監督は「正々堂々と勝負すべき」とメディアから非難の的にされた。相手の4番打者を5回敬遠しても選手生命を絶つことはないが、自分のチームのエースに177球投げさせたら、絶つ可能性はある。どちらの監督がより非難を浴びるべきか、今一度考えてほしい。

「目指せ甲子園」の大スローガンで、一体、何人の野球人生に終止符が打たれたのだろうか。甲子園を主催している大手新聞社は、是非、ケガで離脱した高校球児の人数を発表してほしい。16歳や17歳の若い子たちに、「甲子園が人生で最大の見せ場」という幻想を抱かせてはいけない。

ここでは、黒岩氏の指摘するところの問題点、具体的には「高校スポーツとしては世界でも稀にみる注目度」「大手新聞社が主催しているため、甲子園をメディアが「美化」しようとする」「選手にまつわるお涙頂戴の話を探さなければならぬ」「一番よくあるお涙頂戴は選手の「ケガ」にまつわる話」などについて、現時点における妥当性を本年開催された第98回全国高校野球選手権大会の新聞報道をもとに検討してみたい。

## ◆「世界でも稀に見る注目度」の検証

「日経テレコン 2001」の新聞記事データベースサービスを利用して、過去 5 年間(2011-2016 年)の朝日、毎日、読売各紙の記事数を集計した。集計期間は開会式前日から決勝戦翌日までとし、検索キーワードは「高校野球」とした。

さらに、2012 年のロンドン五輪と 2016 年のリオデジャネイロ五輪の同一期間における記事数(検索キーワードは「ロンドン五輪」および「リオ五輪」、加えて 2016 年については同一期間におけるプロ野球の記事数(検索キーワードは「プロ野球」)も集計した。結果は表 1 のとおり。

表 1 2011-2016 年の記事数推移(本)

	大会期間	集計期間(日数)	朝日新聞	毎日新聞	読売新聞
2011 第 93 回大会	8/6-20	8/5-21(17)	900	985	610
2012 第 94 回大会	8/8-23	8/7-24(18)	932	977	603
ロンドン五輪	7/27-8/12	8/7-24(18)	950	1,134	944
2013 第 95 回大会	8/8-22	8/7-23(17)	925	955	614
2014 第 96 回大会	8/11-25	8/10-26(17)	893	956	563
2015 第 97 回大会	8/6-20	8/5-21(17)	1,045	963	526
2016 第 98 回大会	8/7-21	8/6-22(17)	928	875	493
リオ五輪	8/5-21	8/6-22(17)	1,183	1,365	1,530
プロ野球	-	8/6-22(17)	274	276	349

## ◆「美化」「お涙頂戴」の検証

夏の甲子園の主催者である朝日新聞をピックアップし、本年の記事のデータベースを作成した。まず、表 1 にある第 98 回大会期間の記事 928 本から秋季大会、地区予選写真展などのイベント告知、功労表彰など甲子園大会と直接関係のない記事を除外した 792 本を抽出した。さらに、比較のため、表 1 にあるプロ野球の記事 274 本についても、高校野球の記事を除くなど同様の調整を行って 189 本を抽出した。概況は表 2 のとおり。

表 2 朝日新聞における報道状況

	高校野球			プロ野球		
	記事本数	文字数	(1 本あたり)	記事本数	文字数	(1 本あたり)
総数	792	809,661	1,022.3	189	175,507	928.6
全国版	167	206,117	1,234.2	147	154,483	1,050.9
地方版	625	602,237	963.6	42	20,972	499.3

文字数は本文のみ(見出し・書誌情報を含まない)

これらの各記事について、「美化」「お涙頂戴」に通じる要素として(1)仲間との関係性、(2)過去からの因縁、(3)家族とのかかわり、(4)応援団の応援、(5)地元の応援、(6)裏方の支えの 6 つに「ケガ」、(7)負傷関連を加えた 7 つの要素を「お涙要素」と定義し、その件数をカウントした。結果は表 3 のとおり。

表3 お涙要素の登場数

		仲間	過去	家族	応援団	地元	裏方	ケガ	合計	記事数
高校野球	総数	129	169	96	77	63	96	48	678	350
	(出現頻度)	0.16	0.21	0.12	0.10	0.08	0.12	0.06	0.86	0.44
	全国版	31	50	15	6	2	13	13	130	80
	(出現頻度)	0.19	0.30	0.09	0.04	0.01	0.08	0.08	0.78	0.48
	地方版	98	119	81	71	61	83	35	548	270
	(出現頻度)	0.16	0.19	0.11	0.11	0.10	0.13	0.06	0.88	0.43
プロ野球	総数	2	14	2	1	0	0	13	32	28
	(出現頻度)	0.01	0.07	0.01	0.01	0	0	0.07	0.17	0.14
	全国版	0	6	1	0	0	0	10	17	16
	(出現頻度)	0	0.04	0.01	0	0	0	0.07	0.11	0.11
	地方版	2	8	1	1	0	0	3	15	12
	(出現頻度)	0.05	0.20	0.02	0.02	0	0	0.07	0.35	0.29

◆「一番よくあるお涙頂戴は選手の「ケガ」にまつわる話」【記事集1】

◆「「エースの熱投」だとたたえるだけ」【記事集2】

(ご参考)朝日新聞の高校野球報道パターン【記事集4】

○全国版は前日の試合の結果・経過を中心にエピソードなどを報道(準決勝からは見どころも報道)

○地方版は試合前日に準備状況、当日にみどころ、翌日には「お涙要素」を多数含む長文記事

○特に、敗退翌日は「お涙要素」満載の超長文記事、その後も帰郷などを記事化

【ポイント】

■「お涙」路線はどこまで受容されているのか？【記事集3】

■メディアが「美化」するために「お涙」要素を報じるのか？読み手が求めているのか？選手はどうか？【資料1】

■「酷使」「投げ過ぎ」はどうすれば減らせるか？甲子園システムをどう改善すればいいのか？